

# 豊園幼稚園今昔

左の一篇は京都市豊園幼稚園三十年記念誌の中より抜萃せるものにして我國幼稚園教育變遷史の資料として最有益に又最興味多きものなり。之れを本誌に轉載するに當り、同記念誌を編者に贈られたる同園長司馬のぶ子氏に感謝す。(編者)

## 一、創立當時の保育狀況

明治二十一年本園創立當時に於ては保育法の研究も淺く、且つ一般に幼稚園の趣意も明ならず従つて入園兒の勧誘にも餘程の苦心を要したり。創立委員諸氏は戸別訪問をなし熱心に勧誘して漸く八十名餘の入園兒を得たる有様なり。殊に保育法については經驗少く實際の取扱には領る苦心せり當時に於ける保育要旨及取扱の大略

### 一、會集

#### 一、譚話 修身話、庶物語、

#### 〔修身話〕

- 1 忠孝の教へに基き幼兒の感情に訴へ徳義を涵養せり。
- 2 長上を尊敬し之に服従し從順ならしむ。
- 3 成る可く理説、論議をさけ卑近の譬喩により或は有益

#### 〔庶物語〕

- 1 幼兒の知り易き普通の人工物より始め天然物はつき間答法によりて教ふ。
- 2 實物を得難きものは標本又は繪畫による。
- 3 器物につきては其の構造、應用等を知らしむ。
- 4 植物につきては名稱、形狀、色、産地等を開講し殊に有毒なるものを知らしめ未熟の果實は食すべからざること戒む。
- 5 動物は剥製品又は「アルコール」漬を供ふること。此二法による能はざるものは精密なる圖畫を用ふ。
- 6 圖畫を用ふる場合は實物の何分の一の縮寫なることを知らしむ。

### 三、唱歌

- 6 鑛物は金、銀、銅、鐵、石炭、石油、等の如き日常用途の多きものにつきて効用を知らしむ。

## 四、遊 嬉 民草、家鳩。

### 五、手 技

〔木の積立〕。數、角、面、邊等を知らしむ。園兒に用ふる名稱「骰子體」「カド」「メン」「フチ」

〔板排べ〕。五種の扇形を用いて立體の面を開誘し兼て角度の廣狹、邊條の長短及數を知らしむ。

〔箸排べ〕。開誘法の一例

○汝の持てるは何ぞ。

○如何様に持てる。

○他の棒を取り長短を比較せよ。△甲は長く乙は短し

○斜に置き。

○二本を以て或形を作れ

○三本を以て或形を作れ。

此の如くにして四本五本を與へ種々の形を排べしむ。

○黒板に示せる形を排べよ。

○工夫せる形を排べよ。

〔環排べ〕。箸排と大同小異にして殊に美麗式に富み最初に適し年長には適せず。

〔紙刺〕。紙面に小孔を穿ち諸紋、花卉、及動物物を著す未熟の幼兒には罫紙のみを授け習熟するを待ちて罫紙と白紙を授け。

〔剪纸〕。紙を以て幾何學上の形及種々の花、動物等を剪り出す、幼兒は之を好みども五歳以上にあらざれば誤す。

〔紙織〕。此の紙織は美麗なると危険なきを以て優等組にも劣等組にも用ふ、但し劣等の組には六寸平方の紙に代ふるに三寸平方の紙を用ひ、經緯の紙を四分若くは三分に細裁したるものを用ふ。

〔紙褶み〕。種々の色紙を以て種々の形をたみ出す。

最初の組も最長の組にも通じて用ふ、但し色は三原色に限り優良の組には六色を交へ用ふ、此課は三式に乏しからずと雖も營生式を以て最も樂しとす、其形は船、兎、長靴、箱、三方等あり。

〔豆細工〕。豆は白豌豆を用ひ、之を用ふる前には凡そ二十四時間を隔て水に浸し水より出し乾かすこと一時間にして用ふ、此課三式に富み工夫に従つて使用の便あるは箸排べと此課とを以て第一とす。

〔縫取〕。彩絲を以て刺畫を修飾する最も美しも遊嬉なり最も優良の組に課す、紙は刺紙に用ふるものと同一のものを用ふ、未熟のものには刺畫の罫紙を直に用ひしむ、

絲は双子の木綿絲にして其色は原色と間色を用ひ其他の色は用ひざるを可とす。

〔畫方〕。圖畫に用ふる石盤は普通のものと同様に一面は一寸の四分の一の正方形を罫畫したるものなり、先づ縦、横線の交切する所の點と點との間を一線とし縦線を練習せしめ漸次長くして五線をつなぎ、横線を練習し次に斜線、曲線を習熟せしむ、諸種の線に習熟すれば種々の形を畫かして想像、工夫の獎勵をなす。

〔數へ方〕。數へ方に用ふるものは始めは玩具、木片、箸

板、或は石、果實とす。殊に七葉樹最良しとす、幼少の組には十以下の實數を以て演習し或は數字、加減乗除を演習し年長組には二十以下の實數を以て演習し漸次數字の讀方、命位を徐々に教ふ。

〔讀方〕。二少年の保育を受け玩具其他の方便により事物を理解するに至りし最上の組に之を課す、讀方を教ふるには片假名を先とし平假名を後とす、片假名を教ふるには教ふべき文字を鮮明に板書し自ら範稱し發音の口形を示し某兒を立たしめ之を習はしめ次第に他兒に及ぼし然る後に一齊に和唱せしむ。

〔書方〕。書方は讀方と同時に始めは石筆を以て石盤に演習せしむ、運筆の法は、左より始め上より下に引き下す、又右上より左下に斜に引くことを一々板書し口授す。之を書くには字の位置を整へ字劃を正し且つ連接して一語をなすものは字の大小を等しくすることに注意せしむ。

〔附記〕 創立當時の幼兒保育法は餘程觀念主義の影響を受けたる傾あり、例へば最初は修身話に錦繪を用ひ中江藤樹、名和長年、など忠孝を主としたる聖賢の教へを説きたり、幼兒には理解し難き所多かりしも、割合に能く記憶し感情深きものは時々涙を流し熱心に聞きたり、庶物語の如きも問答法により記憶を主として理科的知識を多からしめん事を努めたり、二十五年に至り漸次幼兒の心身發達の程度に留意しインテリヤン物語の如き寓話を用ひ庶

物語も餘程平易なる材料により言語の練習を兼ねるに至れり、三十三年頃に至りては單に談話と稱し修身話と庶物語とを併せ漸次寓話、童話、假作物語などを多く用ふるに至れり、讀方は大抵書方と同時間に教へ總て修身、庶物語と連絡せしめ、例へば庶物語に鹿の各部の名稱、効用を教へたる時は次の時間に「シカヤムニスム」と讀ませ書かしめたり、かゝる取扱は幼兒には餘程困難にして正確なる練習をせしむる事能はず、二十六年頃より此の二科を省くに至れり、輒近に於て作業主義、生産主義、美的教育學說、人格主義教育說等の研究は幼兒教育研究者に多くの參考資料を提供せり。殊に近世に至り發生的の心理學及近世美學の進歩は幼兒教育研究に貢獻する所少からず。従つて幼兒保育に對する主義及實際の取扱法も木園創立當初に比すれば變遷異動多けれども之が記述を省略し茲には創立當時の状況のみを記す。

### 三、我が園の現在

#### (1) 保育の要旨及保育主義

文部省令の保育要項により、幼兒の内部活動を誘導して、身體各部の均齊なる發育と各機關機能の完全なる發達とを計り、美しき優しき感情を養ひ、以て幼兒の本質を陶冶し、國民生活の基礎を涵養せしむ。而して我が園の教育主義は大約次の

三種に概括し得可し。

一、兒童中心主義

二、遊戯中心主義

三、主意感情陶冶主義

(1) 遊 嬉

〔隨意遊嬉〕 任意的自然的に幼兒の内的活動を表現す

るものと體力を練習するもの。

〔共同遊嬉〕 遊嬉の内に共同精神を養ふもの。

〔感覺的遊嬉〕 遊嬉によりて感覺練習を行ふもの。

〔智的遊嬉〕 遊嬉によりて判斷、反省等の諸力を養ふ

もの等を課す。

〔附記〕 最初は民草、家鳩、風車、など歌曲に合せて行進又は動作など行ひたり。△三十二年本園に於て桃太郎の動作遊嬉を作り之を用ひたるを始めとして漸次一般幼稚園に桃太郎、浦島太郎、金太郎など動作遊嬉を用ふるに至れり。

唱 歌 桃太郎

第一節

かはよ／＼ながるゝきよさ

洗たくすればきものはきれい

もいよ／＼赤ふて大きい

ながれにうかむひろふてかへらう

ひろふてかへつてふたつにわつて  
おちさんと二人で仲よくたべませう

第二節

もいは大きいちい様にこゝ

たべよとしたれば大ごゑあげた

わたしばむすこよ二人はおやよ

孝行しますぞだてゝ下され

ちい様にこゝばあ様にこゝ

桃太郎く達者でそだつ

第三節

わが大きみのみことにそむく

鬼ども退治したからをとらん

おいとまもろて大小きして

うみやまこゆる腰には何じや

おやからもるた團子のうまさ

團子よく日本一よ

第四節

かしこい犬よ主人をようしる

かしこい猿ようけるが上手

きれいなきじよつばさがつよい

そるひもそるふ桃太郎の家來

日本一の團子をもろて

鬼ヶ島いづこいづこじや島は

第五節

山でも海でもさつ／＼とこゑて  
鬼の家こゝじや鐵門たかい

たかいのやぶる桃太はつよいな

犬猿きじはほいたりかいたり

羽ばたきつよく小鬼はまけた

大鬼しばつた桃太はつよいな

### 第六節

桃太はつよい大鬼なかした

たからのみのかさ打出の小づち

きん／＼さんごみんなもつて歸る

孝行つくしていのちは長ふ

ふたおやよるこび商賣繁昌

わが大君のみくには榮へた

## (2) 唱歌

歌詞簡易にして興味ある歌曲を歌はしめ、又  
聴く事によりて心情を快活純美ならしめ、且  
聴覺、發音の練習をなす。

(附記) 最初は風車、民草、家鳩など歌詞、歌曲とも高  
尚優美にして幼兒の精神界には餘りかけ離れたる傾きあ  
り。明治三十四五年頃より桃太郎、浦島太郎、金太郎な  
ど幼兒らしき唱歌を用ふるに至れり。

## (3) 談話

幼兒の外界の現象に對する求知心と、自身を  
了解せんとする欲求心とを指導し談話により  
て自分の生活界と精神界とを内省する事によ  
り自然的に徳性を涵養し、觀察の注意力を導  
き、發音、言語の練習をなす。

(附記) 創立當時は話の材料により修身話、庶物語と區  
別して取扱ひたり。明治三十三年頃より童話、寓話等を  
以て此の兩方の要求を満す事を計るに至れり。

## (4) 手技

### (1) 手技の種類

積木 排方 豆細工 繫方 織紙 褶紙

貼紙 畫方 粘土 笹木 笹板 棒さし

紐通 絲掛

### (2) 手技の配當

三の組 積木、畫方、棒さし、獨樂、紐遊、  
褶紙、貼紙、繫方、豆細工、粘土、  
自然物、色板排

二の組 獨樂、排方、畫方、紐遊、棒さし、  
繫方、織紙、褶紙、自然物、色板排

一の組 積木、排方、紐遊、畫方、棒さし、  
粘土、繫方、貼紙、絲掛、織紙、剪方、色板排

(附記) 最初は「フレイベル」氏の取扱法によりて二十恩物を使用せり、然るに其後東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て解體式を用ひ幼児の内的活動を開發し其の工夫想像を發表せしむるに適する事を認められたり、當園に於ても二十五年頃より解體式を用ひたり、而して近年に至り「モンテッソリー」氏の精神を酌み感覺練習用具を加へ用ふるに至れり、「フレイベル」氏二十恩物中六球と三體とを採用せざる理由は之の二種は他の恩物に比して其の趣意頗る深遠にして且抽象的なれば心身發達の幼稚なる園児に使用せしむるには餘りに効果少なきを認められたる故なり。

## (2) 躰方の要旨

幼児を指導する際には先づ第一に幼児が自ら要求する機會を與ふるか或は其の機會を作る事を要す、複雑なる實習は各兒の個性に應じ適當に分解し常に幼児に其の事に興味を持たしむる事肝要なり。

(附記) 幼児の實生活を善導する第一歩として家庭生活に接近せしむるため、室内は學敷とし食事の時には各兒に食膳をあてがひ年長者には配膳、後方付など年少者の世話をさせ、友愛の心を養ふと共に食事の作法に慣れしめ、保姆、園児の誕生日には其の組

の保姆と園児と一緒に會合して誕生の歌を歌ひ人世の門出を祝し相互に將來の幸福を祈り、三五の節句には家庭及社會の行事と連絡して園内にも雛人形、大將人形を飾り、園児に其の氣分を味はせ、國民的心情の陶冶を計り、或は洗濯場を設けて年少者に手巾、前掛などを洗濯せしむる等、園内生活の全部を成るべく幼児の實際生活を基礎とし、自發的、相互的の間に一族の如く平和と慈愛とを保たしめ、心身の發達に應じ家庭生活より漸次、學校生活、社會生活に順應し、更らに人生の理想に向つて奮闘し得る素質を陶冶せしむる事を努む。

## (3) 會集

保姆も園児も毎朝大凡三十分間一堂に會し全體の統一と、協同、友愛親睦を計るを趣意とし、身の廻りの整頓、朝の挨拶、深呼吸、談話、唱歌、手足の運動を行ひ、快活に楽しく其の日を終らんことを努む。

毎日の行事の豫定

朝會、—手技、—自由遊嬉、—食事、  
自由遊嬉、—共同遊嬉、—歸宅準備、

## (4) 室外保育の設備

砂場と其の玩具。廻轉機。シーソー。滑臺。腰掛臺。大卓子(手技用)。積木。記念亭。

花壇。(花卉の培養) 池。(動物魚類龜等の飼養)

庭園。(山林、野生、雜木の觀察)

洗濯場。物干場。陸上短艇。木馬。

(附記) 郊外保育、幼児を郊外に伴ひ新鮮なる空氣を吸はせ、美しき日光に浴させ、自然の風光に接せしめ、快活なる運動によりて心身の健全を計ると共に自然物及自然現象を觀察する能力を養ひ、自然美に對する趣味及神佛に對する敬虔の念を涵養せしむ凡そ一ヶ年二十回の割にて五、六、十、十一、二、三の六ヶ月は毎月一回又は二回電車を利用し其の他は歩徒にて、桃山御陵、下加茂、八幡、北野、清水、嵐山、圓山公園、將軍塚、動物園等に至り保育を努む。

### (5) 身體検査

毎年春季定期の検査を行ひ尙毎月特別検査を行ひ身長、體重を測定し個人別發育表を作り、その他幼児身體發育標準調、睡眠時間標準調、睡眠と體重との關係、睡眠と握力との關係、等の調査研究を行ひ幼児心身の健全と完全なる發育を遂げしめん事を努力せり。

### (6) 清潔法

幼児使用の玩具は毎週一回日光消毒を行ひ毎年夏の二季に大清潔法を執行し疊其の他の必要器具の日光消毒をなす。

日常衛生上特に次の點につき注意せしむ。

一、食事の前後及砂場等に於て手を汚したる時は必ず手を洗はし、特に爪先を清潔になさしむ。

一、食後には必ず含嗽せしむ。

一、食物はよく咀嚼せしむ。

一、手拭、鼻紙、は必ず携帯せしむ。